

FG-8F[®]

エフジーエイトエフ[®] (不燃材料)



- 基 布/ガラス繊維100%
- 規 格/104cm (204cm) × 50m乱
- 表 面 処 理/フッ素樹脂コート加工

不燃膜材料ですので、準防火地域にもテント倉庫・荷捌き場の庇、膜構造建物が建てられます

国土交通大臣認定

建築基準法第2条第九号及び同法施行令第108条の2
(不燃材料認定) 適合品 認定番号 NM-0414

国土交通省認定膜材料

建築基準法第37条第二号認定品
認定番号 MMEM-0009



2000F (アイボリー) [透光率 8%]
※2000F (アイボリー) のみ204cm巾です。

[透光率の表示について]

透光率データは、ハロゲンランプを光源としています。
太陽光とは異なりますので、あらかじめご了承ください。
透光率データは、JIS R 3106によるもので、測定平均値であり、保証値ではありません。



2002F [透光率 8%]
(アイボリー)



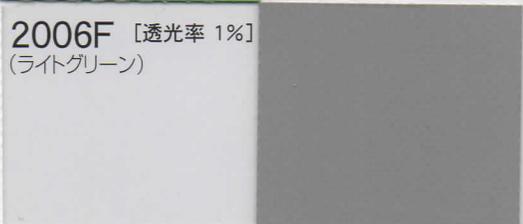
2007F [透光率 1%未満]
(ブルー)



2006F [透光率 1%]
(ライトグリーン)



2001F [透光率 5%]
(ホワイト)



2008F [透光率 1%未満]
(ミディアムグレイ)



2004F [透光率 1%]
(オレンジ)



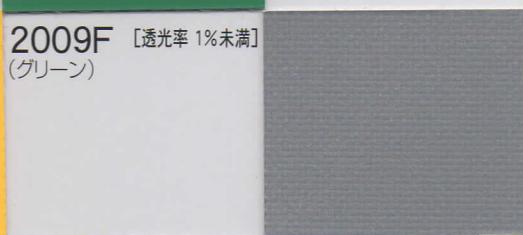
2009F [透光率 1%未満]
(グリーン)



2011F [透光率 1%]
(レッド)



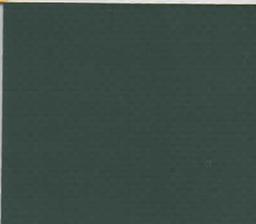
2003F [透光率 5%]
(イエロー)



2010F [透光率 1%未満]
(シルバー)



2005F [透光率 2%]
(ブライトレッド)



2012F [透光率 1%未満]
(ダークグリーン)

ご注意

- 幅継ぎの場合には、布目を一定方向に揃えてお取りつけください。
- ガラスの繊維は屈曲面に弱い面がありますので、縫製時および取り付けの際には、折り曲げなどに充分ご注意ください。
- 縫込みロープ、ハトメ部分の縫製時には、必ず補強布を内側にあててご使用ください。

項目(単位)	測定値	試験方法
幅(cm)×長さ(m)	104(204)×50	JIS L 1096
重量(g/m ²)	840	JIS L 1096
厚さ(mm)	0.57	JIS L 1096
引張強度(kgf/3cm) (N/3cm)	381(タテ)×322(ヨコ) 3735(タテ)×3154(ヨコ)	JIS L 1096 A法(ストリップ法)
破断伸度(%)	4.9×7.4	JIS L 1096 A法(ストリップ法)
引裂強度(kgf) (N)	18.6(タテ)×17.7(ヨコ) 182(タテ)×173(ヨコ)	JIS L 1096 (トラペゾイド法)
	14(タテ)×11.6(ヨコ) 137.2(タテ)×113.7(ヨコ)	JIS L 1096 (シングルタング法)
耐摩耗性	1kg×1000回 異常なし	JIS K 6404
耐水圧(mm)	2000以上	JIS L 1092 A法(静水圧法)
耐寒性	-25℃ 異常なし	JIS M 7102
ウェルダール部引張強度(kgf/3cm) (N/3cm)	357(タテ)×288(ヨコ) 3498(タテ)×2822(ヨコ)	JIS L 1096 A法(ストリップ法) 高周波溶着幅 40mm
	311(タテ)×264(ヨコ) 3048(タテ)×2589(ヨコ)	JIS L 1096 A法(ストリップ法) 高周波溶着幅 20mm
耐引張クリープ性	60℃ 1/10荷重 6時間 異常なし	JIS K 6859 高周波溶着幅 40mm
吸水長(mm)	20以下(タテ) 20以下(ヨコ)	パイロットインク3%水溶液に 72時間浸漬

認定番号

不燃材料 NM-0414

膜材料 MEM-0009

●測定平均値であり、保証値ではありません。

⚠ 使用上の注意

1. ロットNo.による品質、出荷管理について

- ① 膜材料(原反)には、ロットNo.がサイドラベル(片側)に記載されております。
- ② ロットNo.で品質、出荷管理をいたしておりますので、縫製された製品には製造番号を付与し、これに使用した膜材料のロットNo.を必ず記録、保存してください。
※ 膜材料のロットNo.の記録がない場合、製品に問題が生じて膜材料の品質証明を行う事が困難になります。
- ③ 品質には万全を期しておりますが、万が一問題が生じましたら、ただちに当社まで膜材料の品番とロットNo.を連絡してください。
- ④ 生地には、方向性がありますので幅縫ぎの場合は、一定方向に揃えてお取り付けてください。
- ⑤ 生地には表・裏がありますので取り付けの際には、裏面が外側にならないようご注意ください。

2. 膜材料使用上の注意

- ① 表面に防汚加工を施しておりますので、折れシワ等が残り易くなっております。
- ② ライスター、パフ等の熱融着による接合の際は、臭気が発生しますので、必ず作業場を換気してください。
- ③ 高周波ウェルダールで溶着する際は、溶着部分に通電性を有する物質が付着していると、希にスパークを起こすことがありますので、ウェルダールバー及び膜材料の溶着部分に付着物の無い状態で溶着してください。
- ④ 膜材料を安全に使用していただくためには、定期的な点検を実施してください。その際に膜材料の樹脂に亀裂が生じていたり、基布が見えたり、破れ等を発見した場合は、ただちに膜材料の補修または更新をしてください。

3. 廃棄について

- 膜材料及び膜材料縫製品を廃棄される際は、下記の方法で処理してください。
- ① 廃棄物処理法、都道府県条例に従って処理してください。
 - ② 認可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。

4. 膜材料の保管について

- 直射日光、高温多湿を避け室内で保管してください。

準防火地域の法令について(抜粋)

準防火地域において、テント倉庫建築物(階数は1、延べ面積1000m²以下、鉄骨造の骨組)の屋根に不燃材料(法第2条九号)であり、膜材料(法第37条第二号)認定適合品、又は令第136条2の2一号及び二号の規定に適合する膜材料等を用い、外壁に準不燃材料の膜材料を用い、延焼のおそれのある部分以外の部分に設けると、構造不燃の準耐火建築物(令第109条3第二号)として、可燃性の物品の収納が可能となる。

製造・発売元

NI 帝人商事株式会社

大阪/〒541-8540 大阪市中央区南本町1丁目6番7号 帝人ビル
TEL.06(6266)8116 FAX.06(6244)1980

東京/〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目5番5号 住友不動産芝大門ビル
TEL.03(6402)7013 FAX.03(6402)7076

<http://tent.teijin.co.jp/>

お問い合わせ先